

児童発達支援 事業所における自己評価結果（公表）

公表： 2020年 2月 8日

事業所名 こどもサポート教室「きらり」新鈴鹿校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	2	限られたスペースを有効活用出来るよう事務室や物の配置をしている	待合スペースを確保できるように事務室の移動を行った。今後気になる点が出てきた場合は迅速に対応していきたい
	②	職員の配置数は適切である	4		児童指導員 3名常勤	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4			
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4		毎日の清掃を必ず行っている	
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	2	2	担当職員だけでなく、全職員で話し合う場を設けている	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4		アンケートを実施し、結果を掲示している	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4			
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		4		第三者による外部評価は必要であると考えている
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		市や近隣で行われる研修に参加している	
適切な 支援	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4			
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4		統一したアセスメントシートで定期的にアセスメントを行っている	

の提供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4			
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4		保護者の方とモニタリングを行い、定期的に支援計画を見直している	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	4			
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3	1		保護者の方のご要望に添いながらも、お子さんの年齢に合わせた活動を設定している
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4			
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	1	気になる点があればその都度話し合いの時間を設けている	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4			
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		毎回支援記録を取り、見直しをすることでより良い支援につなげている	
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4				
関係機関や保護者との連携関係	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4		児童発達管理責任者が出席している	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4		保護者の方の同意を得た上で連携を取っている	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				

機 関 や 保 護 者 と の 連 携	②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4			就学前の引継ぎ会議に等に 参加し、学校と連携と情報共有 をしている
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4			同上
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4			
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		4		
	②⑨	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4			
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		支援終了後保護者の方と支援内容を含めお話しする機会を設けている	他の人の目や時間の都合により十分に話し合えているとまでは言い難い
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている		4		保護者の方のお話を聴き、適切な助言を出来るようにはしているが、ペアレントトレーニング等の支援としては行えていない
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4		契約時に説明している	
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4			
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		個別支援計画の見直しや、保護者の方の困り感があるときには随時児発管が対応している	
	③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		4		保護者同士の交流の機会は少ないが、現状で問題ない。
	③⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4			
	③⑰	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4			
	③⑱	個人情報の取扱いに十分注意している	4		契約時に個人情報について説明し、全職員が	

				取り扱いに十分注意をはらっている	
	③9	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		
	④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		4	事業所のスペースや職員数の関係で招待することは難しい
非常時等の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4		各種マニュアルを策定し、感染症予防や緊急時の避難場所などを室内に掲示している
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4		毎月1回の避難訓練を実施している(地震・火事・水害・不審者対応等)。なるべく多くの利用者さんと避難訓練を出来るよう心掛けている
	④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4		契約時に細かく聞き取りを行っている
	④4	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4		
	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		ヒヤリハットの事例が起こった場合は報告書を作成し保管している。起こった事例に関し職員全員で話し合い、今後の対策をすぐに講じるようにしている
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		
	④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4		必要に応じて身体拘束について保護者の方に説明し、個別支援計画にも記載していく

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

児童発達支援 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：2020年2月8日

事業所名：こどもサポート教室「きらり」新鈴鹿校

保護者等数（児童数）：11回収数：9割合：81.8%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	22.2%	66.7%	11.1%		身体を動かすには狭く感じる。	事務室の移動等スペースの有効活用をした
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	77.8%	22.2%				
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	66.7%	33.3%				
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	55.6%	44.4%				
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	100%					
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	100%					
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	88.9%			11.1%	毎回同じことをしているのですが、何の為なのかよく分からない。	遊びのねらいや、その遊びの意味を説明し、ご理解していただけるよう努めていきます
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	88.9%			11.1%		
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	22.2%	11.1%	55.6%	11.1%		
保護者への	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	100%					
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援	100%					

説明等		計画]を示しながら、支援内容の説明がなされたか						
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	11.1%	33.3%	11.1%	44.4%		
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	100%					
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	100%					
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	22.2%	11.1%	22.2%	44.4%	他の保護者と関わることはあまりないと思います。	個別支援なので、そのような時間が取れていないのが現状ですが、機会があれば保護者の方々が繋がりを築けるような時間を設けていきます
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	100%					
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	88.9%	11.1%				
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	66.7%	33.3%				
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	88.9%	11.1%				
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	88.9%			11.1%		
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	88.9%			11.1%		
満足度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	88.9%	11.1%			・毎日きりりがあるのか確認するほど楽しみにしている。 ・「行きたくない」と言い出している。	・引き続き楽しみに通っていただけるように療育を充実させていきます ・関わりを見直しながら楽しく来ていただけるよう考えていきます
	㉓	事業所の支援に満足しているか	100%				やっている事はよく分からないが、子どもが楽しんでいるのはいいと思う	楽しめるような療育は勿論、保護者の方へのご説明も十分に出来るよう努めています

